

## 6月例会「梅雨・水辺いきもの探検」報告

令和元年6月23日(日)午前10時~正午、立田山憩の森「お祭り広場」集合。参加者 75 名(うち会員24名)。今年は梅雨入りが遅れカンカン照りの観察会です。捕虫網や魚取り実を持ったチビッ子達が続々と集まります。駐車場が満杯になり、多目的広場の駐車場に車を置きに行ってもらおう方もいるほどでした。

定刻を10分遅らせて始まりの会。チビッ子の開会宣言、藤井会長の挨拶、講師の熊本博物館の清水先生の紹介。先生から「今日は水辺の生き物を何でもかんでも捕ってみよう。自然に親しみ、楽しみ、感じてください」と挨拶を聞いた後、紙芝居「立田山の危険な動植物」を見ました。

いよいよトンボ池に向けて出発です。2班に分かれ、途中でドングリの赤ちゃんやノウサギの糞なども観察。トンボ池に着き、清水先生から「網」の使い方を教えてもらいました。さあ、何でもかんでも「水辺の生き物」採集の開始です。

チビッ子達がトンボ池のほとりに陣取り、池の中に網を入れると、小さな魚や水生昆虫がいました。カエルやイモリも。池の湖面をヒラヒラと舞うチョウトンボ、可愛いイトトンボ、草原にはチョウ、バッタなどもあります。

スタッフが「ザリガニ釣りをしたいチビッ子はいますか? 釣り糸とスルメを配ります」と呼びかけると、チビッ子達が我先にと集まってきます。先ずは「釣り竿」探しから。森の中から1メートルほどの枯枝を見つけ、釣り糸(タコ糸)と餌のスルメをもらって、即席の釣り竿ができました。再びトンボ池に戻り、水中に糸を垂らします。

広場に設けた採集物の「名前調べコーナー」には、チビッ子達が「魚が捕れたよ」「ヤゴを捕まえた」「カエルがいたよ」とバケツを抱えながら集まってきます。両手に「小魚」を乗せて来るチビッ子も。スタッフが慌てて水を張ったバットの中に移します。「黒くてトゲトゲ、こんなのが捕れた」とチビッ子。池の底に沈んだヒシの実でした。

次から次にチビッ子達が持ち込む採集物を白色バットに移し、同じ種を集めて、透明のプラケースに入れます。それを清水先生に確認してもらい、名前を書いた付箋を貼り付けます。清水先生もスタッフはテンテコ舞い。常連参加者のチビッ子にも手伝ってもらいました。

名前調べの最中、チビッ子が「先生、橋の下にマムシがいる」と知らせにきました。さすが清水先生、名前調べを中断してマムシの捕獲に飛んでいきます。チビッ子達もお父さん、お母さんも怖いもの見たさにソロソロとついていきますが、残念ながら逃げた後でした。

11時50分、清水先生による「まとめ」の話が始まります。プラケースを手に持ち「これはドジョウ、トンボ池以外ではどんどん減少しています」「これはイモリの赤ちゃん、小さな足が生え始めています」「カムルチー、外来種です」「リュウキュウベニイトトンボ、温暖化で立田山でも見かけるようになりました」と解説。「フナやドジョウなどの小魚、カエルやヤモリ、貝、トンボ、コオイムシなどの水生昆虫など、こんなに沢山の種類の生き物ががすむトンボ池。この自然を大切にしましょう」とまとめていただきました。清水先生ありがとうございました。

益田事務局長からも「最近、トンボ池ではヒシやオオフサモなどの水草が繁殖してトンボ池を埋め尽くしています。水量の減少、水質の変化が影響しているのかも。注意深く観察を続けましょう」という話があり、最後にみんなで採集した動植物をトンボ池に帰してあげました。

正午、6月例会は盛況のうちに無事終了。参加の皆さん、ありがとうございました。

当日観察した主な生き物は以下のとおりです。ウスバキトンボ、ショウジョウトンボ、チョウトンボ、リュウキュウベニイトトンボ、ハラビロトンボ、ギンヤンマ、ホソミオツネントンボ、トンボのヤゴ、ニホンアカガエル、トノサマガエル、ウシガエル(鳴き声)、シュレーゲルアオガエル、カムルチー、ドジョウ、ギンブナ、マルタニシ、アメンボ、コガタノゲンゴロウ、マツモムシ、ミズムシ、コガシラミズムシ、コオイムシ、タマガムシ、アカハライモリ、ジュンサイハムシ、エンマコオロギ、ニイニイゼミ、ノウサギ(糞)、モンシロチョウ、クロヒカゲ、マダラバッタ、ヒシバッタ、ヒナバッタ、モリチャバネゴキブリ、クロハナムグリ、ユミアシゴミムシダマシ、オオヒラタシデムシ、ヒロオビショウカイモドキ。



